

世界農業遺産の地 佐渡にて開催

～菱肥会ブロック交流会研修会

去る7月10～12日、菱肥会ブロック交流会が新潟県佐渡市にて実施された。今回の企画は東部菱肥会が中心となって行われ、全国会員23社、協賛会員、ゲスト、事務局の総勢41名が参加した。開催の地、佐渡は前々号でも紹介した世界農業遺産の地として朱鷺が住む環境を取り戻そうと島全体で様々な取り組みを行っており、歴史においても興味深い地である。参加された会員の殆どが初めて訪れる地として楽しみにされていた方々も多かったようだ。今回の企画に際し、東部菱肥会理事長の(株)ネイグル新潟五十嵐社長を始め、同社スタッフの皆様方の多大なるご協力を頂きましたこと、書面を借りて感謝を申し上げます。



佐渡金銀山にて記念撮影

今回の交流会では両津市郷土博物館では佐渡の概況説明を聴講、体験講習として佐渡太鼓体験交流館での実演講習、佐渡の歴史に触れるために史跡佐渡金銀山、メインの農業視察では朱鷺と共生するための農業の取り組みが研修内容となった。その中で合同会社菊池アグリより資材をご購入頂いている伊藤久雄氏の水稲栽培圃場についてレポートしたい。

伊藤氏は朱鷺と共生する農業環境作りに取り組んでいる。視察圃場も時折放鳥した朱鷺が飛来する圃場となっており、朱鷺が息をするための住環境整備に協力されている。施肥については窒素肥料として5割化学肥料を削減した肥料を基肥・穂肥共に使用(エムシー・ファートコム社品 満天有機037号)土作りには米糠を使用し特別栽培米の基準をクリア。倒伏軽減と良食味米生産には欠かせないリン酸・苦土・ケイ酸・微量元素資材(MCFC社品ホスピタR)を出穂40日前に使用、農薬使用については箱処理剤のほか、除草剤や殺虫剤も極力おさえた肥培管理となっていた。視察当日は茎数も充分確保されており幼穂形成期に達していた。また、伊藤氏はすぐに肥効が現れる無機

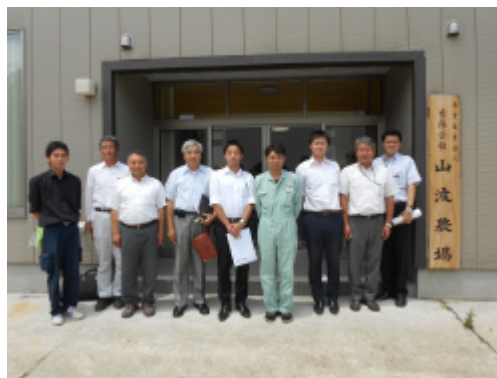


生育状況を説明する(株)ネイグル新潟熊谷氏(左)菊池アグリ菊池社長

化学肥料と違う有機化成肥料を使用されることから、有機化成の肥効についても細かい注意を払われておられ熱心さが伝わった。実は、地元の生産者からすれば朱鷺は古来より植えた稲苗を踏みつけて浮苗としてしまうやっかいものとして見られている現状があるそうだ。今でもなるべくならば苗が大きくなってから飛来してもらいたいと、心の思いを話された。しかし、世界農業遺産となった今では佐渡の取り組みが知れ渡る良きブランドイメージとなる為、これからも共生の道を模索していくことだろう。ひた向きの努力が感じられた現地視察となった。視察したコメを贈答として1kg頂き、早速帰って食したが、張りりと粘りのあるとても美味しいコメであった。想いの詰まった認証米シールが張られたコメを見かけられたら、試しにご購入される事をお勧めしたい。次回のブロック交流会は全国菱肥会総会が予定されているため来年は休みとなり、再来年は東海・北陸・三重地域の中部菱肥会が担当となる。是非とも皆様こそってご参加頂きたい。

現場探訪 農業生産法人有限会社山波農場視察

ブロック交流会のオブショナルとして、新潟県柏崎市にある山波農場を現地視察した。山波農場は平成7年産に第25回日本農業賞大賞を受賞され平成21年にはJGAP認証農場となっている。平成22年に同地区の1等米比率が20%を下回る中で全量1等米を生産して名を馳せたプロ中のプロ水稲栽培生産法人だ。現在、自作地12haでBLコシヒカリ他3品目栽培されている。その他に請負受託地として水稲86.7ヘクタール、蕎麦・野菜等の転作面積を23.1ヘクタール栽培している。訪問当日は山波農場の売りの一つである夏の暑さに負けない良質米の生産のアイテム「ハイグリーン」を動噴背負い肥料散布機にて施肥する作業日であった。水稲の栽培状況を確認した上で作業要綱に基づき施肥していく様はさすがJGAP認証農場である。出荷を控えた真空パックされた米袋の間にもクッション材を入れ破袋防止にも細やかにされていた。また、主力の県認証米である5割減化学肥料は今年度も(株)ネイグル新潟の提案により試験を実施し更なる収量・品質安定の追及を怠っていない。今年は田植え以降天候に恵まれ稲の生育が早まっている傾向にあり、葉色が薄くなって栄養飢餓に陥っている稲が周囲に目立つ。然しながら山波農場で栽培されている稲は色も良く色落ちしている田んぼを見かけるところが旺盛な生育ぶりを見せていた。肥料試験は確実に効果をあげられている様子が伺え対照比較圃と比べると差が歴然としていた。秋の反収と品質が楽しみになっている状況だ。山波農場の優れている点は目標の数値化、作業においては誰が見ても分かるように図面でチェックできる体制にあり各々責任者が配置され作業のばらつきがないよう工夫、スタッフも役割グレード階級が明確化されておりスタッフの皆様は責任と誇りを持って作業されておられるようだ。自社のコメを広く知って頂く方法として近々自社の米粉を利用した移動クレープ屋を考案されており移動車が営業する日も近いようだ。移動クレープ屋といった6次産業化にも目を向けられているがあくまでも自社のコメをPRする材料のひとつとして利用するだけで主力は米作りを徹底していくとの事。ブレない会社方針が伺えた。益々のご発展を祈念したい。



山波代表を囲んで事務所前で記念撮影



施肥専門のスタッフが作業日誌を確認し準備

FAMICのイベント訪問

夏休みが始まりました。お子様を持たれている方々は夏休みの自由研究で何をやるか思案中のことでしょう。そんな中、近年毎年この時期に開催している農業関連のスポットをご紹介します。去る7月21日に実施された農林水産消費技術センター(通称:FAMIC)農薬検査部の一般公開だ。農薬検査部は東京都小平市鈴木町にあり、農薬取締法に基づく農薬の登録検査を行う日本で唯一の施設だ。農薬に対する消費者への啓蒙活動の一環として特に職員が体験コーナーや施設を分かり易く説明するイベントである。パネル展示、情報検索コーナー、残留農薬分析機器見学、科学実験コーナー、お魚ふれあいコーナーがあり流石はアカデミックな内容となっていた。小学生ではかなり内容が難しいようであったが、科学実験コーナーやお魚ふれあいコーナーでは小学生の心を掴む内容となっていた。毎年思考を凝らして内容も変更しているようだ。一般的に農薬といえば消費者にとってイメージはあまり好ましくないものと捉えがちだが、農薬の大切さを理解していただくためのイベントはこれからも継続してもらいたい。



梅雨明け猛暑から一転、東京は涼しい日が続きました。一度暑さから離れると、また猛暑がぶり返した時に身体に堪えます。皆様も体調管理には十分お気をつけください。編集事務局：南部、助川